

“高き志”をもったグローバルな「トップエリート」を育成



西武学園文理小学校

古橋 敏志校長

これまで実施されてきた大学入試センター試験に代わり、2021年1月からは「大学入学共通テスト」が導入されています。そこで問われているのは〈脱・暗記型〉の学力、すなわち思考力と判断力、表現力です。

さらに、英語においては今後「読む」「書く」に加え、「聞く」「話す」能力、すなわちグローバル時代にふさわしいリテラシーが求められるようになることは間違いありません。

こうした流れに先立って、「英語のシャワーで世界のトップエリートを育てる」をキャッチフレーズに、2004年の開学以来、先駆的な教育を展開し、優れた成果を収めているのが西武学園文理小学校です。

「こころ」と「知性」「国際性」の3つを教育の柱に、未来を見据えた12年一貫教育を実践する同校の魅力について、古橋敏志校長に伺いました。

国際競争が激化し、本格的なグローバル時代を迎える中で、次世代を担う子どもたちが将来、あらゆる場面で世界の人々と対等に伍していくには、深い「思考力」と的確な「判断力」、そして相手を説得できる「表現力」が不可欠です。こうした中、最高の教学環境と学習効果の高いカリキュラムデザインで「こころ」と「知性」「国際性」を培い、注目を集めているのが西武学園文理小学校（以下、文理小学校）です。

小・中・高12年一貫教育による洗練されたカリキュラムデザイン

「本校は西武学園文理中学・高等学校とともに、12年一貫教育で21世紀を担う『世界のトップエリート』を育成することを教育の目標としています。そのため、イートン校をはじめとする英国のパブリックスクールを模範

として、真のエリートに相応しい品性と豊かな知性・教養、自由と規律の精神を培うことを教育の理念としています」と古橋敏志校長は説明します。

これまでも、上級学校の西武学園文理中学・高等学校は東大をはじめ、早慶など難関大学に多数の合格者を輩出する東京圏屈指の進学校として人気を集めてきました。

こうした中、2011年に文理小学校に入学した第8期生は、昨年に続き東京大学に合格。4期生2名、5期生2名、6期生1名、7期生1名、8期生1名という実績を残しました。さらに一橋大学や国立大学医学部にも現役で合格しています。

古橋校長は「児童・生徒の一人ひとりの夢を叶えたいという、小・中・高等学校12年間にわたる一貫教育が結実し、花開いたため」と語ります。

その原動力の一つが、文理小学校の代名詞とも言える「英語のシャワーによる文理イメージ教育」です。

小学校から高校まで12年一貫の系統的カリキュラムのもと教えられる英語は、無理なく、無駄なく実践的な実力を養成します。授業は日本人の英語教員と外国人英語講師によるティームティーチングによって進められますが、1年生から外国人の英語講師が話す自然な英語に親しむことで、耳と目、口、身体全体を使って語学力を習得することができるのです。

また、音楽や図工、体育といった教科も英語で行われるほか、登校時の挨拶や休み時間、お昼清掃時の放送、そして児童集会やイベント時の司会なども英語を使用するなど、1日中英語に触れる環境を用意しています。

「文理イメージ教育の狙いは、英語に対する抵抗感を低くすること。そうすると、自分の英語でコミュニケーションすることができるようになります。パティオ（中庭）を使っての朝会や、終業時の連絡事項なども英語で行うので、集中して聞かざるを得ないわけです」と古橋校長。その成果は、小学校在学中に英検3級以上を全員が取得、準2級、さらには2級までも取得している児童が中学年にも数多くいることにも表れています。

さらに特筆されるのが、高学年で実施される文理小学校ならではの「海外研修」です。5年生にはイギリスの名門イートン校やケンブリッジ大学、オックスフォード大学などを訪れ、16日間にわたって、世界中の児童と英語で交流しながら共に学びます。また、6年生ではアメリカでホームステイを体験しながら、ハーバード大学やMITでレクチャーを受けるなど、小学生の域をはるかに超えた活動を展開しています。この費用も基本的に学費に含まれています。



5年生イギリス短期留学～イートン・カレッジを訪問（上）／現地校の先生との交流（下）



6年生アメリカ研修マサチューセッツ工科大学前にて記念撮影（上）／現地校生に日本文化を英語でレクチャー（右）

「海外での体験を通して、子どもたちは初めて英語が世界中の人々とのコミュニケーションを取るためのツールであることに感動します。それが学びへのモチベーションにつながっているのです」と古橋校長は語ります。

さらに特筆されるのが、1年生から学校に隣接した研修センターで1泊2日の宿泊研修を体験させ、4年生では北海道旅行で初めての飛行機やホテル泊になじませるなど、心と体の成長に合わせた宿泊研修を行い、自立と協調の姿勢を身につけさせていることです。常に集団で行動することで、リーダーシップの重要性に気づかせるとともに、その力を引き出し育てているのです。

「STEM教育」で理数系の力を育成 医学部を目指す体験実習も

AI（人工知能）が社会のさまざまなシーンで活用される時代においては、知識をいかに多く身につけるかではなく、「課題を発見し、問題解決のための知識を選択する力」と、「その知識を活用し、自らの頭脳で考え、行動に移す力」こそが求められます。

本校ではまず低学年において、学ぶことの「楽しさ」を体感させるために田植え、稲刈りや工場、商店街見学などの、フィールドワークに基づいたアクティブラーニングを多く取り入れています。そして、体験したことについては必ず記録としてまとめたり、感じたことを書かせたりして、体系的な知識になるよう指導しています。また、本物の教育を目指し、さまざまな分野のプロをお招きしてお話し等をしていただく特別講義も実施しています。

教室ではコンピューター、プロジェクターを使用した独自の教材による授業も実施し、100%理解を目指しています。英語、情報の授業は1年生から6年生まで継続し、大きな成果を挙げています。さらに、例えば算数では3年生から単元別に得意・不得意を考慮してクラスを



長崎研修

日本で初めてオランダ、イギリスと貿易をした平戸市、オランダの雰囲気を感じることができるハウステンボス、幕末のグラバー邸、原爆資料館などがある長崎市を訪問し、平和について考え、如己堂の永井隆博士を知ることでの教育を行いました。



成田イングリッシュキャンプ*

海外で暮らすホストファミリーとのオンラインホームステイを通して、異国の文化や習慣に触れ、その多様性を理解し、国際人としての素地を養いました。また、成田山新勝寺では日本の文化や伝統を海外の方に説明するなど、英語を用いたコミュニケーションスキルを磨きました。

※ 2022年は新型コロナウイルスの関係で海外研修が実施できなかったため、国内において研修を行いました。

編成した授業を実施するなど、全教科にわたって児童のモチベーションの向上に細心の注意を払っています。

なかでも、英語と並ぶ文理小学校のカリキュラムのもう一つの特徴が「STEM教育」(Science、Technology、Engineering、Mathematicsの略。科学、技術、工学、数学を中心とした教育)です。

「ユニークなのが、文理高等学校の理数科生を先生として招き開講するロボット・プログラミング講座です。鳥や恐竜などさまざまな自作ロボットを実際に動かすというもので、自分たちをサポートしてくれる高校生は児童にとって憧れの“未来の姿”。子どもたちの成長過程に、心理学でいうモデリングの存在であることが、小中高12年間による一貫教育の大きな強みといえるでしょう」と古橋校長。さらに、医学部への進学を目指す児童の興味関心を引き出すために、埼玉医科大学総合医療センターでの医療体験実習などにも取り組んでいます。

日本人のアイデンティティを養い 教養ある「真の国際人」を育成

国際社会でリーダーシップを発揮できる人材となるためには、まず日本人としてのアイデンティティを確立させる必要があります。そのために、西武学園文理小学校では日本の伝統的な文化を正しく理解させることを重視し、礼儀・作法、マナーのほか、日本人として本来身につけるべきことの教育を実践しています。安心・安全に最大限に心を配り、廊下を通してすべての教室が見渡せるなど学校の「見える化」にも留意しています。

小学校卒業後は、一定の基準を満たしていれば文理中学校に進学することができます。中学校では、2021年より難関国公立大学や国公立大学医学部をめざす「グローバル選抜クラス」と、高度な英語力と知的土台をベースに、グローバルシチズンシップを備えたグローバル人材の育成をめざす「グローバルクラス」の2クラス体制がスタートしています。そして、12年間の締めくくりとなる高校では、「グローバル選抜クラス」「グローバルクラス」に加えて『自律した理系人として世界を創れる人材の育成』を目標とした「先端サイエンスクラス」を設置し、多彩な進路を希望する生徒に合わせた、きめ細かな指導を行っています。

「本学では具体的な教育の目標を、『こころを育てる』『知性を育てる』『国際性を育てる』の3点に設定し、日々の教育活動の中で実践しています。『世界のトップエリート』の育成を目指す本学の教育方針に賛同される皆様のお子様の入学を心よりお待ちしております」と古橋校長はメッセージを送っています。



理事長
安達原文彦

平成16年4月に開校して以来、「英語のシャワーで世界のトップエリート育てる」教育を続け、世界に向かって着実に歩んでまいりました。

西武学園文理小学校の教育方針は「すべてに誠をつくし、最後までやり抜く強い意志を養う」のもと、「こころを育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」ことを重点目標として教育実践を行っています。

人としての豊かな心、先人の知恵に学び創造する知性、日本人としてのアイデンティティをもって国際社会で活躍する力、これらすべてを身に付けて未来をリードすることができる人材＝世界のトップエリートの育成を目指しているのです。

子どもたちが将来、自分の能力を活かす場を世界に求め、グローバルに活躍できる力を身につけられるよう、学ぶ力を習慣化し、常に自らを進化させる意欲をもつよう指導し、保護者の期待や社会的要請に応えていくのが、西武学園文理小学校の使命です。